

1 アフターコロナ時代の教育改革とFD活動

甲南大学FD委員会委員長 高龍秀

甲南大学では、2023年度は基本的に対面授業を実施する方針が出され、コロナ禍以前の授業環境に戻る事となる。2020年度から3年間のコロナ禍で、ITを駆使したWEB活用授業の経験を積み、その環境の中で教育効果を上げるために本学でも各教員が努力を続けてきた。2023年度はそれらの経験も活用しながら、新しい環境で教育改革とFD活動を続けていく必要がある。今後の教育改革とFD活動においては、以下の3点を検討することが重要ではないかと考えられる。

第一に、LA(ラーニングアシスタント)活用授業を発展させることである。本学では2015年度より、アクティブラーニング型授業の活性化を目指してLA制度が導入された。LA制度は“Teaching is Learning”をモットーに、グループワークやレポート作成において履修者に上級生がアドバイスすることで履修者の学びを支援するとともに、上級生もLA活動を通じて学習支援のスキル向上など自身の学びにつなげる取り組みである。コロナ禍でLA活動が非常に難しい時期もあったが、リアルタイム型WEB授業でのグループワークでLAがサポートするなどの経験もあり、2022年度に100名を超えるLAが様々な正課科目において活動している。大学基準協会による2020年度認証評価においても本学の長所と評価されたこのLA制度を今後も発展させる必要があるだろう。

第二に、学習成果を様々な方法で測定し、それを基に教育課程を検証する課題である。学生の学習成果を検討する際に、修得単位やGPAなどが現在でも活用可能である。しかし、「卒業必要単位を修得した」あるいは「GPAが一定の数値であった」という時に、教育課程での各科目において成績評価が厳格で適正に実施されているかという点から検証すべき必要が

生じる。さらに、一定の修得単位とGPAという学習成果をあげることによって、学生のどのような力がどれだけ伸びたのかについて他の方法でも測定し可視化することが今後の課題になっている。例えば、英語の学習では、1年次のCollege English各科目の修得単位、GPに加えて、本学で学生が受験しているGTECのスコアを入学時点・1年次の11月頃、さらに留学のための英語集中プログラム履修生は2年次6月に受験することで、英語能力がどの程度向上しているか測定し可視化することが可能になる。経営学部の会計分野では簿記の各種試験結果が学習成果の測定に活用可能であるように、各学科でふさわしい学習成果測定方法を検討することが必要になると考えられる。

第三に、2022年度から授業改善アンケートに追加した新しい質問項目「この授業の履修を通じて到達目標に示すどの力が身についたと思いますか?」に関する回答を分析し、学部学科の教育課程改善につなげる必要がある。この質問は、学位プログラムごとに掲げている到達目標について、学生自身がどの力が身についたと考えるかを聞くものである。それぞれの学部学科においてすべての科目の到達目標は、「履修要綱」においてカリキュラムマップで示している。例えば、学科において必修科目の到達目標としている項目について、学生自身は力が身についたと考えているのか、そう考えている学生の比率が低い場合は何が原因か、どう改善すべきかを学部学科で検討することで、教育改革に活用することが求められている。今後も経験交流を行いながら教育改革とFD活動の活性化を進める必要がある。

2 「BYOD(Bring Your Own Device)活用に関する研修会」報告

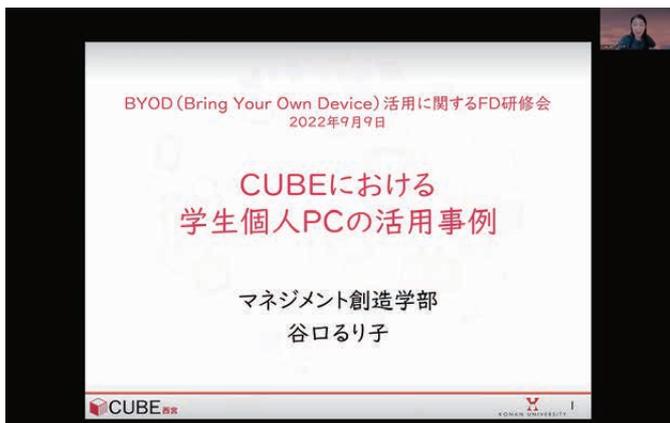
報告者: 知能情報学部 山中仁寛

2022年9月9日(金)、「BYOD(Bring Your Own Device)活用に関する研修会」と題して甲南大学FD研修会がZoomによるオンラインで開催され、マネジメント創造学部の2名の登壇者より授業におけるBYOD活用の実践事例報告があった。

一人目に登壇した谷口るり子先生は「CUBEにおける学生個人PCの活用事例」と題し、前半にCUBEにおけるBYOD活

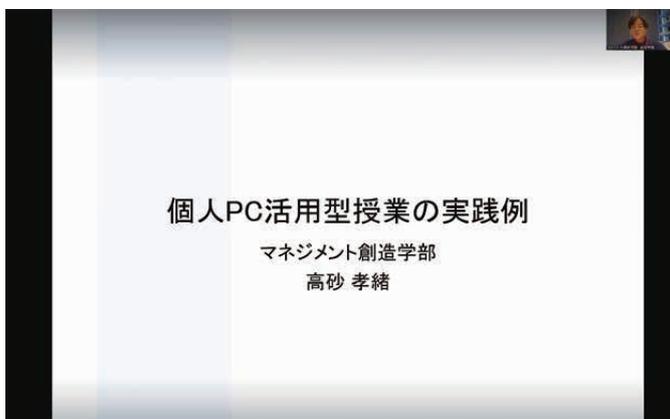
用のための環境構築について、後半には複数の授業での実践事例を紹介した。

環境構築については、西宮キャンパスにおけるWi-Fi、電源コンセント、印刷機の設置についての紹介であった。西宮キャンパスでは、Wi-Fiが全館完備されており、教室のみならずフリースペースにおいてもネットワークに接続することが可能であるとのことであった。また、電源コンセントにつ



いても一部の教室を除きフリースペースにも設置されており、基本的に充電をしながら受講ができる環境であるとのことであった。印刷機については、4つのフロアに設置されておりネットワーク上でどこからでも任意の印刷機で出力できるとのことであった。

後半の実践事例では、1年次必修科目「ITリテラシー」「ロジカルシンキング」「リサーチ・イントロダクション」の授業は、初回に学内PCを使うものの2回目以降は基本的に個人PCにより受講するとのことであった。この授業では、ワード、エクセル、パワーポイントのofficeの基本を学び、グループワークではブラウザを使用した情報検索、エクセルによるデータ整理やグラフなどの作成、パワーポイントによる発表資料の作成を行っているとのことであった。学生個人PCの機種やOS、バージョンの違いによって、機能が異なる点への対応が課題とのことであった。さらに、2年次以上の科目「プロジェクト研究」では、グループワークが主であり、office365のファイル共有機能などを積極的に活用し、授業時間外も必要となる作業は環境が整ったフリースペースなどで問題なく実施できているとのことであった。4年次科目の「卒業プロジェクト」では、個人での研究となるため教員と個人のPCを用いてデータ共有などを行い進捗や議論を行っているとのことであった。このように、入学から卒業までの間、個人PCを活用し、学修を行っていることが紹介された。



二人目に登壇した高砂孝緒先生は、「個人PC活用型授業の実践例」と題し、ワイヤレス画面転送装置であるwiviaについての紹介を行った後、授業でのBYOD活用の実践事例を紹介した。

wiviaとは、パソコン・タブレット端末・スマートフォン

の映像を無線でミラーリングする装置であり、次のメリットがあることを紹介した。(1)受講生が誰でも簡単にネットワーク経由でプロジェクターに投影できるため双方向授業を円滑に実施することができる。(2)データを簡単に投影という形で共有できるため、データ転送や印刷などの手間を省略することができる。(3)従来の有線での投影環境では、使用するPCを共有したりケーブルなどに触れたりする必要があったが、非接触デバイスとして使用できるため感染症対策などに非常に効果がある。(4)発表の形式によるが、プレゼンテーションを行う際に座席の移動などが不要となり、着席したままの発表が可能である。ただし、wiviaに接続できるPCはOSのバージョンに依存するため、使用できない学生がいるという点がデメリットとのことであった。

実践事例では、「データ分析」と「研究プロジェクト」が紹介された。「データ分析」は演習系の授業であり、ファイル化された授業資料に沿った解説のあと、個人PCによりエクセルを用いて演習課題に取り組み、wiviaと組み合わせて議論を行う形式で実施されている。この授業では、個人PCで取り組むことから自習環境に制約がなく、ファイル管理や整理に慣れることができ、wiviaの活用により発表機会の増加といったメリットがあるとのことであった。一方で、谷口先生の発表でも触れられたOSの違いによる問題、個人PCを使用することから学生の内職、さぼりといった問題もあり、これらを防ぐための授業設計が必要との指摘があった。2年次以上の「研究プロジェクト」では、グループワークを行う際に各自が作成した資料をホワイトボードに投影し、その上に参加者で書き込みをしながら議論を行うなど学生のスキルが向上しているとのことであった。BYOD活用の効果としては、特にデータ共有の容易化によりグループワークの効率化が大きなメリットであるとのことであった。さらに、My KONANのクリッカー機能などを活用することによりリアルタイムで学生の意見を確認できることも紹介された。

各報告のあとに設けられた質疑応答の時間では、研修会参加者より様々な質問が寄せられ、活発な議論がみられた。参加者は、最大で約60名とBYODの活用に対する関心の高さがうかがえた。個人PCを必須とするためには、初心者でも使えるようになる教育が必要であるが、個人のものであるとトラブルがあっても自ら解決しなければならず、おのずとスキルは向上するとの意見があった。また、自ら解決できない問題に対しては、CUBEでは「IT工房」という施設がありITに関するサポートスタッフが常駐し対策が行われているとのことであった。全学的にBYODの活用を進めていくためには、学部の垣根を越えて全学的にさまざまな授業アイデアやノウハウを共有していくことが重要といえる。本研修会はその先例として、本学教員にとって大変有意義な機会となった。

3 「ラーニングアシスタント(LA)活用に関する研修会」報告

報告者：文学部 田中貴子、法学部 田中誠人、経営学部 若林公美、
フロンティアサイエンス学部 中野修一



2023年2月15日(水)、「ラーニングアシスタント(LA)活用に関する研修会」と題して甲南大学FD研修会がオンライン併用で開催された。

はじめに、教育学習支援センターよりLA制度の概要について説明があった。甲南大学では2015年度からLA制度が始まった。本制度は授業内で先輩学生が後輩に様々なアドバイスを行う学生参加型の学習支援であり、これにより、LAを担当する学生への教育効果と、サポートを受ける学生の理解度やモチベーションの促進が期待されている。また、LA制度にはA、B、Cの3種別があるとのことであった。

次に、一人目の全学共通教育センターの千葉美保子先生による講演では、種別A「授業科目において、グループワーク等のファシリテーション、質疑への対応等」についての事例紹介が行われた。なお、千葉先生の関わりでは2018年より「ベーシックキャリアデザイン」および2019年より「共通基礎演習」においてLAが導入されている。共通基礎演習では、プロジェクト学習として「甲南大学のオープンキャンパス企画を提案する」などのグループワークが実施され、その中でLAは受講生と先輩(縦)と受講生同士(横)の繋がりを支援する役割を担い、具体的にはグループワークでのファシリテーション支援、プレゼンのアドバイスなどをおこなってきた。ベーシックキャリアデザインでは、上記同様にファシリテーション支援、および「LA企画」と呼称するLAによるグループワークの提案などを主としつつ、キャリア科目ということから、より近い未来の姿としてのロールモデルとしてもLAが存在感を発揮している。受講生のアンケートでは、およそ9割の受講生から「LAのサポートにより授業内容への理解・関心が深まった」「気付きがあった」との回答があり、さらに自由記述においても「先生よりも距離が近く話しやすい・相談しやすい」など、多くの受講生がLAの存在に意義を見出しているとの結果が示された。次いで当該2つの講義においてLAを体験した学生2名により、LA自身も受講生との関わりの中で自分自身の変化・成長が得られたとの体験談が紹介され、千葉先生により「講義の受講生およびLA双方にとってLAという制度がプラスになっている」との総括がなされた。

二人目の理工学部物理学科の青木珠緒先生による講演では、種別B「実験・実習科目において、技術や知識面での支援、実験や実習による学習が効果的になるためのアドバイス等」

についての事例紹介が行われた。物理学科で2年後期から3年前期に開講される「物理学実験I、II」において毎年6名のLAが採用されており、LA学生による受講生への個別アドバイスとサポートが行われている。一般的に実験科目では、実験の原理と方法の説明、実験装置の使い方の説明、実験操作とデータ解析、レポート作成等の幅広い内容の指導が必要になる。このため専門性の高い「物理学実験I、II」では、LAの導入が実験科目の質の向上に大いに役立っている。LA学生は、受講生のレポート作成や装置使用のアドバイスをを行い、実験が円滑に進むようにサポートしている。LAの存在は受講生からも好評であり、LA学生には気軽に尋ねることができることや、手本となる先輩の存在によってモチベーションが向上するというアンケートの回答が紹介された。また、講演中にLA学生のインタビュー動画を公開していただいた。インタビューからは、自分が1年前に行った実験に対する再学習効果、コミュニケーション力の向上、LAを経験したことによる自信の醸成など、LA学生の成長にもつながっていることがうかがえた。LA学生は後輩学生を指導するという責任を自覚しながら業務に取り組んでおり、実験科目におけるLAの導入は受講生だけでなく、LA学生に対する教育効果も高いという説明がなされた。講演の最後に、LA導入のための今後の課題として、対話による理解をさらに深めるための取り組みを検討することや、就職活動の時期と重なるためLA学生を確保するのが難しい場合があるということを挙げられ、LA制度をより効果的に運用するためのヒントを伝えていただいた。

三人目の全学共通教育センターの岡村こず恵先生による講演では、種別C「授業で課される課題レポート等について、基本的な文章の書き方や構成についてのアドバイス等」についての事例紹介が行われた。LA活用のきっかけは、「レポートに何を書いたら良いかわからない」という受講生の悩みに応えることにあった。まず、講義のなかでアカデミック・ライティングについてレクチャーし、学生にテキストによる事前学習を促した。その後、LAによるライティングサポートにより、レポートの作成が進められた。教育学習支援センターにはLAの手配やスケジュール管理を依頼し、事前にLAに講習を行ったうえで、初年度は62名の受講生に16名のLAが付く形で、指導が行われたという説明がなされた。LAには週1回昼休みに40分の講習を行い、学生と類似の課題をまず実施して、LAにアカデミック・ライティングの基礎をきちんと身に付けてもらうことを行った。その上で、実際のサポートは、2限目、3限目、昼休み、4限目に設定し、受講生1名あたり20分、報告書作成5分として実施した。年度ごとに様々な改善を重ねた結果、8割の受講生がLAを利用し、アンケート結果からも7割以上の受講生がLAのサポートにより、レポート作成の改善を実感していることが報告された。授業改善アンケートにおいても、学生の満足度が高まったと同時に、LAの満足度も高まったとのことであった。今後の課題としては、アカデミック・ライティングの教員側の負担の軽減、LAの柔軟な運営、LAの確保などが指摘されたが、全体としてLAの活用が受講生の能力や自信を高める効果があることを報告された。

4 2022年度甲南大学FD委員会 (2022年4月～2023年2月)

- | | | | |
|------------|--------------------|-------------|------------------|
| ○4/4 | 新任教職員ガイダンス | ○12/19～1/16 | 後期授業改善アンケート実施 |
| ○5/2 | 第1回FD委員会 | ○12/23 | 第2回FD委員会 |
| ○7/11～7/24 | 前期授業改善アンケート実施 | ○2/15 | FD研修会 (LA活用について) |
| ○9/9 | FD研修会 (BYOD活用について) | | |

《学部・センター・研究科の主なFD活動報告(2022年4月～2022年12月)》

〈文学部・研究科〉

該当期間中の実施なし

〈理工学部〉

- 4/7～5/10 生物学科での教員相互の授業参観及び意見交換
- 6/17 機能分子化学科での教員相互の授業参観及び意見交換
- 6/29,8/3 物理学科での教員相互の授業参観及び意見交換
- 7/22 物理学科での文理融合講演会
- 9/12 生物学科での授業改善アンケート結果に基づく意見交換
- 9/27 機能分子化学科での授業改善アンケート結果に基づく意見交換
- 10/11,10/26 物理学科での教員相互の授業参観及び意見交換
- 10/26 物理学科での授業改善アンケート結果に基づく意見交換
- 11/15～12/5 生物学科での教員相互の授業参観及び意見交換

〈自然科学研究科〉

- 4/8 安全講習会 (化学物質の安全な取り扱いについて)

〈経済学部・経済学専攻〉

- 11/30 甲南大学 FD シンポジウム～経済学部ベストレクチャー事例発表～ (甲南大学 FD 委員会共催)

〈法学部〉

- 5/23～6/5 前期中間授業アンケートの実施
- 6/29 教員相互の授業参観
- 7/12 教員相互の授業参観に基づく意見交換
- 11/3～11/16 後期中間授業アンケートの実施
- 12/9 教員相互の授業参観
- 12/20 教員相互の授業参観に基づく意見交換

〈経営学部・経営学専攻〉

- 11/8 授業改善アンケート結果に基づく意見交換

〈知能情報学部〉

- 4/26 成績不振者に対する特別指導の報告
- 9/28 授業改善アンケート結果に基づく意見交換

〈マネジメント創造学部〉

- 5/25 英語教育に関する FD 研修会 (Extensive Reading and Extensive Listening について)

- 7/1 英語教育に関する FD 研修会 (XReading について)

〈フロンティアサイエンス学部・研究科〉

- 5/9 研究倫理委員会
- 5/9 授業改善アンケート結果に基づく意見交換
- 5/12 安全講習会 (高圧ガス、試薬、研究倫理について)
- 7/7 教員相互のベストレクチャー授業参観及びアンケート実施
- 7/25 ベストレクチャー事例発表及び意見交換
- 11/1 教員相互のベストレクチャー授業参観及びアンケート実施

〈全学共通教育センター〉

- 4/1 他 計 15 回 スポーツ・健康カリキュラム委員会
- 4/5 他 計 11 回 基礎共通科目カリキュラム委員会
- 4/6 他 計 15 回 外国語教育担当者会議
- 7/9 第 52 回言語教授法・カリキュラム開発研究会 全体研究会 (外国語教授法と誤用の分析について)
- 8/5,9/6 国際言語カリキュラム委員会
- 12/17 第 53 回言語教授法・カリキュラム開発研究会 全体研究会 (大学の外国語教育の目的とその変遷)

〈教職教育センター〉

- 4/25 移動式電子黒板の使用説明会
- 5/30,6/20 授業改善アンケート結果に基づく意見交換
- 7/5 次世代電子黒板の体験会

〈公認心理師養成センター〉

- 4/19 FD 研修会 (「公認心理師の職責」の履修学生について)

〈法科大学院〉

- 5/9 第 1 回拡大 FD 委員会 (授業参観について、授業アンケートについて、到達目標達成度確認表について)
- 6/20 第 2 回拡大 FD 委員会 (司法試験の傾向について)
- 8/19 第 3 回拡大 FD 委員会 (授業アンケートについて、到達目標達成度確認表について)
- 11/7 第 4 回拡大 FD 委員会 (授業参観について、授業アンケートについて)

さらに詳しい情報・報告はホームページへ！

大学トップ ▶ センター・研究所・図書館 ▶ FD－甲南大学のFDへの取り組み－

問い合わせ先

FD委員会ではFD活動やFDニュースについてご意見・ご要望を受け付けています。
 全学教育推進機構 教育学習支援センター TEL078-435-2592(内線2812) MAIL lucks@adm.konan-u.ac.jp